○政務活動（行政視察・研修）報告書

政務活動実施状況

会 派 名 （参加者）	創生会 （水島美喜子、多比良和伸、山下克己、伊藤俊喜、石田健太）
視察・研修名	（１）徳島市「ふるさとワーキングホリデー」 （２）神山町「まるごと高等専門学校」 （３）美馬市「人生 100 年時代～アクティブシニア」
視察・研修の 目　　的	事業実施に至る背景・経緯、概要、運用方法、成果、課題等について
目　　時	令和５年 11 月 14 日（火）～16 日（木） ※行政視察＝11 月 15 日・10 時～16 日・正午
視察研修の 概　　要	**（１）徳島市「ふるさとワーキングホリデー」** 【日時】　15 日（水）　10：00～11：50 【担当】　議会事務局　局長　宮本和幸　氏 議会事務局議事調査課　主事　三井健太　氏 企画制作部企画生活課　課長　小原和浩　氏（兼 SDGs 推進室長） 企画制作部企画生活課　係長　江渕和晃　氏（兼 SDGs 推進室） ①経緯 人口減少の推移を鑑み、他地域からの移住定住を促進するため、平成 31 年４月に「移住交流支援センター」を設置。その後、保育士の確保対策の一環として保育施設の就労体験を実施するにあたり、移住定住策と有機的に結び事業効果を高めるよう令和３年度から「ワーキングホリデー」を開始 ②概要 ・　就労体験期間は１週間～２週間 ・　就労時間は１日８時間。勤務開始終了時間は使用者側で設定 ・　就労のほか行事への参加、市内観光、地域交流会等を取り入れ、市の魅力や暮らしの情報発信に努めている ・　期間中の住居は斡旋せず参加者個人の自由としている ・　参加者には就労費と交通費を支給（就労費（補助金）は 8,000 円程とし事業所に支払いをしている） ※　実施当初の就労体験は保育施設のみであったが、移住定住の促進を図るため令和４年度より藍染や木工等の伝統産業を加える。 対象は一般人としているが、大学生の参加を重点に８月下旬に実施 ③運用（申込手順） ・　計画、対応等は「移住交流支援センター事務局」にて実施（委託） ・　申し込みは、Ｗｅｂサイトのフォームにて受付 ・　参加者、受入事業者、事務局、市職員合同での面談を実施 ④成果 本格的な事業開始が令和４年度と浅いこともあり、この間の移住定住者は現時点では皆無

※視察研修の概要には、視察研修先等を含め記載のこと

視察研修の概　要	⑤課題 　移住定住を促進する傍ら、保育士や伝統産業はもとより、地域の様々な業種で高齢化や担い手不足が見受けられ、一層就労者の確保が喫緊の課題となっている。 ⑥その他 　ワーキングホリデーは全国的に展開され、取り組んでいる自治体も数多くあることから、徳島市の特徴として農業体験など多くの市町村が行っている競争率の高い設定を避け、市の伝統産業の就労を主として設定している点に工夫が見受けられる。また期間中は観光地巡りやイベントなど地域の方との交流を深める機会を設けることで、たとえ移住定住に結びつかなくとも、参加者が体験をもとに周囲に徳島市の魅力を発信するといった、観光業の活性化をはじめとした地元経済への波及効果が期待でき、非常に参考となる取り組みであった。 **（２）神山町「まるごと高等専門学校」** 【日時】　15 日（水）　14：00～15：40 【担当】　総務課企画調整係　係長　坂井　義隆　氏 ①経緯 　人口が 5,000 人を下回り高齢化率も 54.1％と過疎化が進む中、その対策として、全町内に光ファイバーを敷設するなどインターネット環境を整える大規模なインフラ整備を実施。それにより 2010 年に民間企業（Sansan㈱）がサテライトオフィスを設置する。その後、参入企業の縁などにより「ものづくり」をテーマにした高専プロジェクトが 2019 年に発足され、2023 年に私学による５学年生の専門学校が開校した。 ②概要 ・　開校：2023 年４月 ・　目的：実践的・創造的技術者（起業家）の養成 ・　学科：「デザイン・エンジニアリング学科」 ・　学生：200 人（40 人×５学年）を予定　※2023 年度は 44 人入学 ・　就学スタイルは全寮制 ※　５年間の一環教育として高校～大学の７年間を凝縮 ③運用（運営管理等） ・　完全な私立学校とし、運営管理に関わる町の補助等はなし ・　教員採用等は学校側で全て行い、教育委員会の関与はなし ・　町の支援としては旧中学校校舎（現学生寮）及び新校の建設用地を無償譲渡（旧校舎の用地は無償貸与） ④成果 　本年４月に開校したばかりで、学生の進路動向等の結果は現時点でなし。 　町内に若者が居住したことで、経済的効果や賑わい及び移住定住に期待。

視察研修の概　要	⑤課題 　現時点での課題は特にないが、教員やスタッフが居住する家屋等が町内では不足しており、経済効果等を考慮し町外からの長距離通勤の解消が必要 ⑥その他 　訪問した高専は時代背景を考慮した町のインフラ整備が功を奏し、民間事業所が様々な繋がりにより立ち上げた成功例である。 　行政が直接私学に介入することはほぼないため、今回のケースを参考にした行政への働きかけは難しいが、ただ、デジタル技術の発達など社会の変革を的確に読み取った“まちづくり”を進めることは、まちの発展に繋がる一つの大事な要素として捉えることができた。 　なお、本校は全国から 399 人の応募（県外は約 60%）があり、ＳＮＳの情報発信力に改めて感心させられた。 **（３）美馬市「人生 100 年時代～アクティブシニア」** 【日時】　16 日（木）　10：00～12：00 【担当】　美馬市議会　副議長　前田良平　氏 　　議会事務局　次長　大島康作　氏 　　美来創生局　美と健康のまち推進課　課長　大島直子　氏 　　経済部　観光交流課　事務主任　大森秀樹　氏 ①経緯 　昨今の人口減少や高齢化率（40.7%）の推移、さらには国の「人生 100 年時代」の提唱を受け、生涯活躍をコンセプトに健康寿命の延伸を目指す大体的な施策が必要とし、令和４年４月に活動拠点施設「小星ベース」を開設。 　労働力不足が顕著にある昨今、高齢者の健康維持及び社会参画に着目するとともに、これら事業を起点とした経済的効果やまちの賑わい創出を目指すとしている。 ②概要 ・　令和４年４月に活動拠点施設「小星ベース」を開設 　施設内での軽運動等の事業はもとより、市内各所で様々な事業を展開 ・　職員数は６人が常駐 （正職員４人、地域おこし協力隊１人、ＡＮＡ派遣１人＝３年） ・　施設内の健康体操等をはじめ生活習慣病予防や身体機能の維持・向上を目指す各種事業を展開 ・　事業メニューよっては民間企業との共同実施もあり （美を通じた外出促進事業など） ・　市内各所で行われている「いきいき体操」と連携 ・　地域おこし協力隊の配置により、イベントや環境美化活動と連動した企画を立案 ・　情報発信の手段としてＳＮＳ上での動画配信を実施

視察研修の概　要	③運用（運営管理等） 　現行は市直営で運営。ただし、今後は指定管理者制度も検討 ④成果 　施設利用者からはＳＮＳや文書を通じて高評が寄せられている。 　数値的な評価は難しいが、今次、介護保険料の減額に繋がった。 ⑤課題 　現時点で施設運営に関わる課題は特になし。 　今後は常時、各種事業の参加者拡大が課題になると考えている ⑥その他 　当市の高齢者の引きこもり対策及び健康寿命延伸の取組として、特に注視すべき点は「美」をテーマにしたところにある。 　地元の美容師を講師に招きメイクや頭髪、ネイルの手入れなどの美容教室の実施に加え食生活改善の指導教室等、「美」に重きを置き事業を展開しているところが非常に興味深い。なお美容教室は男性専用の回も実施し好評を博している。 　さらに、ウォーキングとまちのゴミ拾いを融合するなど、健康促進事業を各種行事と有機的に結びつけるアイデアも参考になる部分である。 　『“きれいになる”→“出かけたくなる”→“活動的になる”』という考えで「美」に着目した施策・実践は、しっかりと意識が地域に根付けばいずれ大きな成果に繋がる可能性は十分にあるという印象を受けた。 **■脇町　訪問** 　美馬市の行政視察後、脇町（2005 年に美馬市と合併）を訪問 　砂川市の「街頭もちつき」発祥の地として、地元「もちつき保存会」の方との面談及び町内の観光名所“うだつの町並み”を散策 　なお、木場職人として出稼ぎに来た脇町出身者により、明治 35 年に砂川木挽工場が操業し、これが後のサンモク工業に発展している。 ※その他、詳細は別添研修資料のとおり 以上

○政務活動（行政視察・研修）報告書

政務活動実施状況

会派名 （参加者）	創生会 （多比良和伸、山下克己、伊藤俊喜、石田健太） ※水島議員は体調不良により不参加
視察・研修名	（１） 遠軽町 「遠軽町芸術文化プラザ」施設見学並びに活動状況 （２） 網走市 「日本体育大学附属高等支援学校」の取組み （３） 北見市 書かないワンストップ窓口とDXの取組み
視察・研修の目的	学校・施設設立及び事業実施に係る経緯、概要、成果、課題等を視察し、今後の活動の参考にするとともに、議員としての能力向上に資するため
目時	令和６年１月31日（水）～2月１日（木）
視察研修の概要	（１） 遠軽町 「遠軽町芸術文化プラザ」施設見学並びに活動状況について 令和４年８月に開館、指定管理者が商工会議所で駅直結の施設。文化ホールと公民館と市民交流施設を合わせたような機能を持つ。砂川市地域交流センターゆうの太田晃正氏がアドバイザーを務めており、館内を案内いただき、活動状況についても説明を受ける。文化施設としての機能、備品等も遠軽町が合併の際の交付金等を活用し、非常に整っていた。また、白滝の黒曜石が国宝に指定され、これをきっかけにした文化芸術活動も検討中とのこと。砂川市のゆうや建設予定の駅前施設などの運営等の参考となった。 ※翌日悪天候が予想されることから、１日繰り上げて訪問した。 （２） 網走市 「日本体育大学附属高等支援学校」の取組みについて 2017年に日本体育大学と網走市が連携協力して、網走市職業訓練跡地の無償譲渡を受け、知的障がい児を対象にした高等支援学校を開校した。島崎学校長、平野副校長より学校施設の説明を受け、また教育方針などもお聞きし、地域とのつながりを大切にした学校の在り方、学校跡地の再利用などの参考となった。 なお、詳細については、別紙のとおり （３） 北見市役所 「書かないワンストップ窓口とDX」の取組みについて 北見市市民環境部川島参事、高久窓口課長より説明を受け、その後実際に窓口にて模擬手続きを見せてもらう。北見市の窓口サービス改善の取り組みは、住民目線と職員目線の両面から役所の手続きはなぜ面倒か考えたことから始まる。取り組みのポリシーは、利便性の向上と職員の業務の効率化。平成24年にワーキングGを作り、職員が体験することで多くの気づきにつながった。そして、窓口支援システムの導入、ワンストップ窓口につながっていく。今自治体に求められているDXへの対応は、システム導入が目的ではなく、ITツールを使いながら、仕事の手順ややり方を変える創意工夫が大切とのこと。デジタル社会において、誰ひとり取り残されない窓口対応が求められる今こそ、対面窓口の裏側はもっと効率の良い形にする業務改革が必要とのことで、大変参考となる内容であった。

※視察研修の概要には、視察研修先等を含め記載のこと

○政務活動（行政視察・研修）報告書

政務活動実施状況

会派名 （参加者）	創生会 山下克己　　伊藤俊喜
視察・研修名	新人議員講座
視察・研修の目的	新人議員としての心得や先進的な活動を学び、議員としての能力向上に資するため
目時	令和５年７月２９日（土）１３：３０～１７：００
視察研修の概要	北海道自治体学会議会技術研究会、交易社団法人北海道地方自治研究所　主催 議会技術研究会　新人議員講座　「新人議員とともに議会を考える」 （　北海道自治労会館　札幌市北区北６条西７丁目　） 第１部　鼎談　神原　勝氏（北大名誉教授）、西科　純氏、渡辺三省氏 「福島町議会改革から考える議会と議員の力」 福島町議会が進めた開かれた議会を目指しての改革の三つの視点 ①　議会の主役は議員、②　住民が参画する議会、③　変化を恐れない議会 第２部　基調報告「当選を果たして考えること」 ・沼尾昌也　浦幌町議会議員 「なぜ、浦幌町議会が若返ったのか」をテーマに、若者は選ばない政治という手法を若者も選ぶ政治という手法に代えていこうとしている状況、取り組みについて報告。浦幌町議会は議員の成り手不足の状況から、現在は議員の半数は20代～40代が占めている。 ・小暮千秋　斜里町議会議員 前回は「10万円選挙」でお金をかけず、今回は「ソロ選挙」で一人でどこまでできるか挑戦した選挙戦について、1期目「ちょこっとトーク」、2期目は「お話きます」を目標にまずは対話から始める政治姿勢について報告。 第３部　ワークショップ 「住民も関心を持てる議員活動を考えよう」をテーマに４つのグループに分かれ情報交換を行う。 第４部　講演「新人議員の心得」　講師：神原　勝氏　北海道大学名誉教授 「新人議員の17条の心得」を基に「知らないは新人議員の特権」「議員と市民のミゾを解消しよう」「自治・議会基本条例を活用する」「寒冷・先例はまず疑ってみよう」「先進議会の改革動向に目配りを」「答弁側の落としどころに要注意」などについてお話しいただいた。 ※新人議員としての心得や他市町の議会の先進事例などを学ぶとともに、他市町村の議員との交流を図ることができ、有意義な研修であった。

※視察研修の概要には、視察研修先等を含め記載のこと